

< もくじ >	
1. 創立 20 周年記念大会開催について	1
2. コロナ禍について想うこと、言いたいこと	1
3. 原稿募集！ コロナ禍について想うこと、言いたいこと	3
4. 研究会からのお知らせ	3
5. 研究会からの概要報告	4
6. 事務局からのお願い	6

## 1. 創立 20 周年記念大会開催について

時代の大きな転換を予感させる「コロナ禍」の世界的拡大が当学会の「設立 20 周年」の節目に重なることの意味は大きく、2020 年は、世界の動きや国の動き、識者の見解、また地域や周囲の身近な人びとの行動に耳を聳て目を凝らしつつ、当学会の来し方を振り返り、今後のあり方について身を引締め熟慮すべき重要な年であると思います。新型コロナウイルス感染症の拡大により、6 月 14 日(日)に予定されていた「創立 20 周年記念大会」は延期となっていますが、大勢の参加者が一堂に会することがはばかられ、通常通りの開催が困難な中で、「創立 20 周年記念」イベントとしての「基調講演」と「3 者鼎談」については、web 上の公開討論形式とビデオ収録とを組み合わせるなどの方法で、何とか開催できる可能性が出てきています。現時点では、事務局会議と運営委員会において開催方法について検討中です。

今回のニュースでは、まだ日程と開催方法の詳細をお知らせすることはできませんが、準備が整い次第、理事会の承認を得て JAASNews とホームページ上でお知らせいたします。

事務局会議や運営委員会は、すでに zoom を使って開催しており、学会運営の新しい方式について試行錯誤を続けております。会員諸氏からもさまざまな経験や試みなど、参考になる情報ご意見をお待ちしております。(長田 記)



7月24日運営委員会の映像(鈴木昭男)

## 2. コロナ禍について想うこと、言いたいこと

(1) コロナ禍に思うこと、言いたいこと～「リモート」から見える未来のかたちとは？  
八巻睦子(ユニアデックス株式会社未来サービス研究所、会員)

IT 関連企業の研究所に勤めております。業種柄、コロナが問題化する以前からリモートでの勤務にある程度は慣れていましたが、これほどまでに長く続くとは予想外でした。同じく在宅でオンライン授業を受ける娘と、こちら在宅勤務になった夫とのまさに「密」な家庭生活、仕事での Web 会議のトラブル...などに戸惑いながら、他の人々や違う業界はどんな様子なのかな?という関心が生じ、社会のさまざまなリモート事例について調査研究を始めました。シニアに関する分野では、介護施設と演奏会場を Zoom でつなぎ開催した Web コンサートや、ビデオ通話アプリを使った施設入居者と家族との遠隔面会等について調査しました。突然始まった「直接対面ができない」事態に立ち向かい、創意工夫しながらリモートでレクリエーションやコミュニケーションを継続する関係者の姿勢に心を打たれました。また、皆さんが口をそろえて「今回手に入れたノウハウは、コロナが収束した後

も役に立つ」と仰っていたことも印象的でした。距離にとらわれない新しい社会のかたちが、アフターコロナ後も一つのスタイルとして定着していく予感がします。※各事例の詳細は、未来サービス研究所 WEB サイトにて『リモート』から見える未来」というタイトルで連載中です。よろしければ是非ご覧ください。( <https://www.uniadex.co.jp/approach/mirai/> )

## (2) シニア向き分譲マンションでの新型コロナ予防・感染防止対策

加藤 琢 (株式会社シティインデックスホスピタリティ、会員)

私が勤務するのは都内にあるシニア向け分譲マンションです。分譲マンションと他の高齢者向け住宅との違いというのは、「管理組合があること」です。区分所有者となった方は管理組合員となり共有部分の維持管理を自ら行うこととなります。最高意思決定機関は管理組合員全員による総会、運営は理事会で行い、私たちは管理会社という立場で総会・理事会活動の補助や受託したシニア向けの各種サービス業務を遂行しています。居住者は70歳以上の自立した方が多く、要介護の方も居住されています。

さて、新型コロナウイルス感染症対策ですが、外来者は通常のマンション同様各居住者の判断で多様な方の出入りがあります。また、館内の共有施設も多種多様にありますので、管理組合として個人の活動を制約するには限界はありますが、管理組合(理事会)が主導して、外来者には37℃以上の発熱者の入館禁止要請とその確認のためのサーモグラフィーの設置、居住者には三密回避、自宅での検温実施、共用部でのマスク着用、不要不急の外出や人との接触を極力さけること等をお願いして協力いただいています。

3月からの感染拡大時には館内感染の危機感から、通常配置とは別に24時間の看護師専従者の配置を管理組合に提案、承認を得て5月から2か月間発熱者に専従で対応しました。幸いなことに6月中旬には都内感染者数の減少もみられ、感染者はいませんでした。そのため、管理組合で専従体制の継続の可否を検討したところ、費用負担も大きいことから2か月で終了となりましたが、居住者にとって安心となる取り組みでした。

都内では、第2波ともいえる感染者数の増大がみられますので、引き続き緊張の中で業務を行っているところです。

## (3) オンライン授業では補えないこと 荒井 浩道 (駒澤大学、理事・運営委員)

コロナ禍で、都内の大学は大きな影響を受けています。4月は休校となり、5月以降もキャンパスへの入構が制限され、オンラインで授業が行われています。わたしの勤務先も、前期のうちはすべてオンラインで授業を行うことになりました。9月以降も対面での授業を全面的に再開するのは難しくそうです。

急に始まったオンライン授業に、最初は戸惑いました。まず、通信環境を整えるため、それまで使っていた遅いADSL回線から、速い光回線に契約を変更する必要がありました。そして、授業準備にこれまでの数倍の時間をかける必要がありました。講義形式の授業では、受講生の反応がわからず大変でした。演習形式の授業では、双方向のやり取りに僅かなタイムラグが生じるため、なんだかギクシャクしました。

なによりも大きな障壁となったのは、学生のパソコン、インターネット環境です。おそらくオンライン授業が始まった当初、完璧な状態で授業を受けることできた学生は少なかったのではないのでしょうか。スマートフォンで授業を受ける学生も多くいました。自宅に無線LANの環境が整っておらず、限られた通信容量の範囲内でどうにか接続している学生もいました。通信状態も常に安定しているわけではなく、途中で接続が切れてしまう学生もいました。

しばらくオンラインで授業をしてみて気づいたことは、やはり対面授業には敵わないということです。たしかに大学の授業をオンラインで行うことは可能ですが、そこにはどうしても補えない要素があるように思います。それは、“時間”と“空間”の共有です。

リアルタイムのオンライン授業では、“時間”を共有することはできても、“空間”を共有すること

はできません。動画配信型のオンライン授業だと、“空間”はもちろん、“時間”すら共有できません。コロナ禍は、“時間”と“空間”を共有するという人間的な営みの大切さを、改めて気づかせてくれました。

#### (4)「コロナ禍」で進む「デジタル化」 柴田 守 (ナルク市川、会員)

新型コロナウイルス感染症との戦いが長期戦に至る中で、私たちの生活環境にも改革が迫られている。移動や3密を避けるツールとしてオンライン、リモート、テレワークといったICTの活用による情報コミュニケーションの「デジタル化」が進められた。これが業務の効率化や働き方の改革にもつながったことで、その利便性、効率性が改めて認識された。国は今後の政策推進の指針となる、いわゆる“骨太の方針”に「デジタル化の推進」を掲げて、行政分野のデジタル化が一気に進む状況になった。この動きは地方自治にも及んできた。私の住む市川市ではLINEを活用した行政の情報サービスがすでに始まっていて、生活支援・医療・介護といった身近なところにデジタル化が及び始めている。

私はこれまでアナログ派を自認し、「歳が歳だしガラケーで十分」と腹をくくっていた。しかしデジタルが日常生活に及んでくるとかかかしてはいられない。特別給付金10万円を使って“スマホ”を購入して、デジタル化の推進に備えることにした。機器操作のコーチ役は地元のボランティア仲間の大学生たち。複雑な操作をいとも簡単にやってのけ、世代に違いを見せつけられた。シニアが機器の操作が苦手なのは世界共通でカナダやオーストラリアでは学生がボランティアでシニアのデジタル操作をサポートしているという。女子大のSさんから「ボランティア活動も自粛で時間が十分ある、週1回1時間程度Zoom機能を使ってオンライン会議をやりましょう」との提案で「Zoomに挑戦する会」がスタート、シニア社会学会の社会情報研究会も月1回の例会がZoomになって、スマホが大活躍している。オンライン会議は、はじめは「音が出ない」「カメラがうまく写らない」などトラブルがあったが、「習うより慣れろ！」で克服。少しずつ軌道に乗り始めている。

八十路を越えたアナログ人間が、スマホの操作で四苦八苦。これもコロナがもたらした禍い。とんだ「コロナ禍」だ。

### 3. 原稿募集！ コロナ禍について想うこと、言いたいこと

緊急事態宣言が解除されたとはいえ、新型コロナウイルスの感染拡大は続いています。新しい生活様式が提唱されていますが、その内実是不確かです。この数か月間、皆様は、どのような日々をお過ごしでしょうか。自粛生活における体験や感じたこと、考えたことなどについて、何でもご自由にお書きください。次号以降のJAASニュースに掲載いたします。文字数は、600字前後、締め切りは特に設けません。

送付先は、メールの場合には、[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp)

郵送の場合には、〒150-0002 渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202 シニア社会学会事務局  
(事務局出勤日を水曜のみに制限していますので、できるだけメールでお願いいたします)

### 4. 研究会からのお知らせ

#### (1) 第11回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2020年8月26日(水) 15:30~17:30

2) 場 所：Zoom 開催

3) 概 要：コロナと共生する社会—社会情報とのかかわり等で思うこと つづき

※ 参加ご希望の場合は、8月23日までに森 [moriyasu@ied.co.jp](mailto:moriyasu@ied.co.jp) までご連絡ください。

#### (2) 第7回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2020年8月29日(土) 18:30~20:00

2) 場 所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)

3) 発表者：鈴木眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会）

4) テーマ：徘徊できる社会を考える

※ お問い合わせは、鈴木眞澄（mme\_masumi@yahoo.co.jp）迄お願い致します。

〈現状〉

新型コロナの対策のためPhysical Distanceに万全を期します。未曾有の高齢者社会を迎えている我が国にとって、高齢者介護の負担軽減は喫緊の課題です。なかでも、認知症は要介護原因の20%を占める疾患であり、その数は増加の一途です。その原因として、認知機能低下のある個人を効率的に内定する社会の仕組みがないことがあげられます。そのために社会全体での取り組みが必要です。新オレンジプランにおいて認知症の人の介護者への支援は「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現する」とあることから言えます。このことから本会では、認知症の方が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるための研究を続けています。（鈴木眞澄 記）

### （3）第74回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2020年9月24日（木） 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：発表と討議 — 『コロナウイルス感染拡大防止策として人の移動の自由を制限すること』について

4) 発表者：薄井 滋

5) 参加者：300円

なお、コロナ感染状況及び大学側の制限等により、中止せざるを得ないことも考えられます。

次号のJAAS News 第253号（9月16日予定）でご連絡致します。

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

## 5. 研究会からの概要報告

7月15日発行の前号と同様、8月19日現在多くの研究会は集合形式での活動を控えております。第7回「YNS やまぶき任意後見サポート会」は、2020年7月17日（金）18:30~20:00に開催する予定でしたが、新型コロナ感染予防のため休会になりました。しかし、多くの制約条件の下で様々な工夫をされている三つの研究会からの報告を掲載します。

### （1）第10回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2020年7月30日（木） 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：コロナと共生する社会—社会情報とのかかわり等で思うこと

Zoomによる研究会開催は二回目となります。前回はZoomで繋がるかの確認と顔合わせとなりました。今回は、スマホからの参加者の回線状況が芳しくなく、Zoomの電話機能を使っただけの参加となりましたが、7名での開催となりました。今回の発表はその中の4名です。（有料アカウントで接続しているため、長時間の開催や電話機能の利用が可能となっています）。

（1）富田 「コロナと共生する社会—社会情報とのかかわり」

国内で起こっていることを新聞記事からピックアップして「コミュニケーションまわり」と「一見便利に見えるもの（情報一元化、キャッシュレス）」の2軸でまとめたものを資料として提示し説明と進めました。その中で、シニアに対しては、情報に対してのセーフティネット化などの安全な対応ができていないこと、今は、トライ&エラーの時期ではないか、といった提示がありました。

（2）柴田 「コロナ禍とデジタル化」

コロナを契機にガラケーからスマホに変更しました。コロナ禍への対応を見ていて、思ったより早くデジタル化が進んでいることを実感しています。スマホに機種変したことを契機に、「習うより慣

れろ」の精神でナルク3名、S女子大教員1名で毎週 Zoom 会議を実施しています。今後は、他大学やナルクとももう少し輪を広げていきたいと思っています。スマホを買った時、学生にすぐ教えてもらいました。このように学生と世代間の交流ができるといいですし、シニアはメディアに弱いので、若い人に助けてもらえるのはとても助かっています。一方、シニアの知恵は学生にとって有効ではないでしょうか。今後、生活の場にデジタル化が進むでしょう。シニアもこの分野に知見をもたないと乗り遅れるという危機感があります。

(3) 森 「新型コロナウイルスをめぐる情報とのかかわりー私は「情報リテラシー」を持っているのだろうか？」

コロナをめぐる情報の氾濫と政府施策から、「情報リテラシー」と「情報格差」を実感しました。誰の話可信なのか、情報収集において“フィルターバブル”に陥っているのではないかなど、情報の洪水に遭遇してその渦に巻き込まれる自分を実感しました。新型コロナウイルス感染拡大の局面では、未知なるものへの不安や不確かな情報などが広がり、研究会で「情報リテラシー」の重要性を検討してきたにもかかわらず、冷静に情報に接することが難しいと実感しました。不安や不確かな情報による分断、今なお解決されない情報格差など、社会の脆弱な部分が見えてきたように思います。コロナと「共生」していく社会は、正確な情報で不安と感染拡大を抑えて、社会機能を維持する方向に進むのではないかと思います。

(4) 森嶋 「コロナと共生する社会ー社会情報とのかかわり等で思うこと」

自粛期間中の小学生の学習や大学のオンライン授業、町内会の定例会での民生委員の発言などから思うことを提示しました。小学生の場合、ネット環境がないことが学習格差につながっているように思いました。大学のオンライン授業は(G Suite for Education を利用) オンライン研修を受けて、4月から12週実施、来週(8月第1週)で終了します。週1回ですが準備量が多くて大変です。授業中私語がない等学習面では良いですが、学生はカメラとマイクを切っているので一方通行となり繋がりが持てません。学生が2人のクラスでは、教師含めて3人でビデオ・音声ONでやり取りでき、学生教師とも満足しています。民生委員はコロナの影響で一人暮らしの高齢者宅を訪問できない状況となっています。高齢者の孤立化が進むのではないかと懸念されます。接触型の社会のつながりだけでなくネットを介した非接触型の社会のつながりをどう持つか課題と思います。

参加者からは、「情報リテラシー」を改めて考えてみると「情報の収集と処理の総合的能力」に他ならないのではないかと。知力や考え方の柔軟性が必要でありクリティカルな情報は他の情報を見なければならぬ。個人の能力だけでなく、そのまわりに優れた専門性と個性を持つ人のネットワークを持っている方が有利なのではないか、というコメントがありました。一方、引退すると入ってくる情報が減り、メディアからの情報に偏ってしまい、それが世代間の格差を生むという意見も出されました。(森記)

## (2) 「シニア社会のリテラシー」研究会 — 「ネット通信」実施中 —

例会は2月から長期に亘り中止になっており、研究会メンバー間のコミュニケーションとつながりを継続したいという思いから、『近況報告〜つぶやき〜』とのタイトルで「ネット通信」を実施しています。

23名の登録メンバーが、コロナ禍で自粛生活を送っている今、思うところを気軽にメールで交歓し合い、お互いに楽しく情報交換を行なっています。

延べ47名の方(8/18日現在)から投稿いただいています。嬉しいこととして、例会には出席が少ない方が積極的に参加いただいていることです。堀江副武さんからは、地域の活動などで蓄積された歴史・海外事情・趣味など多方面に亘るご本人の学習の成果のレポートを洒落なジョークを交えて寄稿いただいていること。今井洋子さんからは特に当「ネット通信」を楽しみに見ている様子、ご自分に興味や関心のあった「かかりつけ医」についての問題や「お互い様のこころ」についてのテーマなどに楽しくユニークな見方でコメントを送って下さっています。藤森洵子さんからは、ご自身がアメリカ事情に詳しいことから、アメリカの最新ボランティア事情について、興味深い事例を紹介

下さいました。そして現役の植原政仁さんからは注目したテーマについてユニークで示唆に富んだメッセージを寄せて下さいました。

濱口座長は、3回寄稿下さいました。1回目は5月25日（月）に「PHP前後～新型コロナウイルス禍後のいわゆる『新たな生活様式』について～」と題する問題提起を、2回目は7月9日（木）に中締めメッセージとして、「特異年としての1989年と2020年」とのタイトルで課題の提示を、そして3回目は8月18日（火）に「『友達の友達の友達の、、、』話のつづき―広中平祐先生の創才」と題して「創才」の出没についてつぶやかれました。

メンバーの皆さんは、コロナ禍の自粛生活の中で、それぞれ当「ネット通信」楽しんでいただいているものと思います。

例会の再開は、来る9月24日（木）を予定していますが、開催出来ることを願っています。

なお、当「ネット通信」に興味を待たれ、参加してもいいと思われる方は、事務局・島村まで、ご連絡いただければと思います。（島村 記）

### (3)「ライフプロデュース研究会」の現状とお知らせ

当研究会は、新型コロナウイルス感染症対応優先のため、残念ながら2月26日開催予定であった第19回研究会を中止して以降、感染拡大の状況を考慮しつつ研究会再開を目論んでおりましたが結局、感染再拡大の現在に至るまで対面式の会合は中断しております。

会員が一同に集まる研究会そのものは中止している代わりに、全員が順番に「コロナ自粛生活について」の実態をメールで報告・発信し合い最終的には、各自の近況報告として研究会ブログに収めています。各人各様な『with コロナ時代』への対応策や処方術が卒直な筆致で述べられ、会員同士の前向きな意見・情報交換や問題提起の場にもなっていると歓迎、仲間の中で積極的に活用し合っています。

既に研究会員六人の「コロナ自粛生活」報告書が集まり、興味のある学会員の方々にはブログをじっくり読んで頂ければ納得いくことと思いますが、各人の最も刺激的かと思われる箇所を一カ所だけ選択して、ここで披露することになると一。ここまで書いてきて、「こりゃあ駄目だ！全編内容が豊富過ぎ、学問的、思索にも満ちており『一カ所だけ』には絞れない」と自分の勉強不足と判断の甘さを猛反省！

学会員の皆様、是非ともライフプロデュース研究会のブログを、じっくりと目を通して頂きとうございます。各人が取り組んだ諸外国の専門書を含め硬軟織り交ぜた、各種の“宝物”が一杯詰まっておりますから一。（皆川 記）

## 5. 事務局からのお願い

会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願い致します。

なお、電話による会員情報変更や退会の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、メール・FAX・郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/